

秦野市長 平成29年 年頭所感
～未来に向かって輝き続けるまちづくり～

この1年は、私の3期目の任期の最終年であります。市長就任時には、本市の直面する大きな課題が多数ありました。未来の「はだの」は、今の努力があって創られるのです。改めて市勢の発展と市民福祉の向上のため、全力で取り組んでいく覚悟です。

政府は、一億総活躍社会のスローガンのもと、「成長と分配の好循環の強化」、「経済再生」、「働き方改革の推進」、併せて「財政健全化の両立」を実現する予算として、平成29年度一般会計総額の予算案を9兆7千454.7億円とする旨、昨年12月22日に閣議決定しました。

本市の新年度予算編成につきましては、歳入面では、地価の下落に伴う固定資産税などの減収の影響により、市税の落ち込みが見込まれる一方で、歳出面では、少子高齢化の進行を背景とした社会保障関係経費が増加します。この主要な財源である消費税の税率引上げが延期されたことなどにより、十分な財源を確保することが極めて困難な状況を強いられる見通しです。

こうした中で平成29年度は、本市の「総合計画後期基本計画」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は2年目を迎えますが、計画に位置づけた事業を積極的に展開し、5年後、10年後の近未来を見据え、「未来に向かって輝き続けるまちづくり」を進めてまいります。

市内では、新東名高速道路の工事が着々と進み、羽根トンネルは貫通間近です。平成32年度の開通により、既存の東名高

速道路とのダブルネットワークが実現し、交通アクセス向上や産業活性化への期待はもちろんのこと、防災力強化にも繋がるものです。

これまで、「ふるさと秦野」の魅力向上のため、様々な事業に取り組んでまいりました。その魅力を更に高めるべく、秦野駅北口や鶴巻温泉駅南口などの駅周辺をはじめとした都市基盤整備を進め、住環境の向上を図ります。

来月１日の入居開始に向け、若年夫婦や子育て世代に秦野を「ふるさと」にしてもらえるよう準備を進めている「ミライエ秦野」は、現在、全５７戸中３５戸に申し込みをいただいています。

また、クリーンセンターの熱源を利用した「名水はだの富士見の湯」は、市民や行楽客の新たな憩いの場として、１０月のオープンに向けて整備を進めています。

こうした、新しい取り組みにも果敢にチャレンジしながら、市民の幸せのため、「未来に向かって輝き続けるまちづくり」を一步一步、着実に進めてまいります。

本市の人口は、平成２２年（２０１０年）１０月の１７万３８８人をピークに減少に転じました。これまで経済成長を前提とした右肩上がりの時代における「富の分配」の考え方は、人口減少を成熟社会の到来としてとらえて「痛みの分かち合い」の考え方へと変化していきます。

社会の大転換期にあって、多くの市民の皆さんが心の豊かさを享受できるよう、知恵を絞って、限られた財源を効果的に活用し、持続可能な行財政運営を一層推進してまいります。